

令和2年度第1回芽室町男女共同参画審議会

令和3年3月4日(木)19:00~19:45

庁舎2階会議室7

出席委員(9名)

嶋野会長、中川副会長、伊藤委員、犬飼委員、男澤委員、柴田委員、樋詰委員、舟渡委員、山田委員

事務局

石田企画財政課長、我妻企画調整係長、餌取主事

開会

委嘱状交付

会長・副会長選出

企画調整係長: 条例により議長は会長が務めることになっているため、ここからの進行は会長にお願いしたい。

会長: それでは、議題に入る。(1)第3期芽室町男女共同参画基本計画について、事務局より説明をお願いします。

事務局: 第3期芽室町男女共同参画基本計画に沿って説明。

会長: 今の説明に対し、質問等はないか。

委員: (なし)

会長: 続いて、(2)令和2年度住民意識調査結果について、事務局より説明をお願いします。

事務局: 資料1に沿って説明。

会長: 今の説明に対し、質問等はないか。

委員: (なし)

会長: それでは、住民意識調査の結果を受けてどう思うか、今後目標値に近づけていくために何をしたら町民の意識が変わるのか等、委員の皆さんの意見を伺いたい。

委員: 育児ネットめむろからの推薦で委員をやっている。その視点から見ると、育児ネットの週末のイベントなどには男性が参加する機会が非常に少ない。長女が生まれたときに10日間くらい育児休暇をとり、育児ネットめむろが開催している茶話会などに参加した。やはり周りは女性ばかり。10年前なので、男性の育児参加がまだなかなか無かった時代。今は比較的に男性も育児する時代の流れにはなっているが、まだお母さんが子どもの面倒をみるという意識が大きいと思う。男女共同参画というと、女性の社会進出がクローズ

アップされがちだが、男性が育児に参加するということも重要だと強く感じている。男性が「思わない」と回答しているのは、男性が育児したいという想いがあってもなかなかできないということもあると思う。男性の育児参加が大事だと思う。積極的に活動することによって、周りの人にも伝わる。啓もう活動などで町民に伝えていくこと、それを続けていくことが重要である。

委員：自分が回答するとしたら、「どちらかという思う」と回答する。年代別にみると30～40代が「思わない」と回答した割合が高くなっている。10～20代の方は性別に関係なく社会進出(参加)できているのに、少し大人になった 30～40 代が「思わない」の回答が多いのはさみしいと思う。育児・子育てしながら社会進出できる町になったら良いなと思う。

委員：女性が育休を使うことによって、復帰するときは上手く元いた場所に戻れる環境にあるのか？役場はどうか。

企画調整係長：事業所としての役場は、産休・育休の制度はもちろん、復帰がスムーズにできるように育児休暇というシステムもある。朝1時間、夕方1時間休暇をとれる仕組みであり、復帰に向けてサポートしている体制である。男性に関しては、育児休暇をとるケースは極めて少ない状況である。民間企業の状況は抑えていないが、役場よりもっと厳しい状況のところはあると思う。

委員：子育てしながら仕事をしている人は、自分が子育てをしていたときより増えていると感じている。「思わない」「どちらかという思わない」と答えた人は、なぜ、何をもって思わないのかを吸い上げていかないと、解決するものが見えてこないと思う。育児休暇等の制度ではなく、有給を消化する中で子育てする人もいると聞く。自分の会社でも、お父さんも子育てに参加しなさいと言ってきているが、大きな会社じゃないから言いづらいという社員の声もある。

委員：「思わない」と答えた割合が高くなるのは、育児に対して不安に思っていることがあるからではないか。民間の状況を把握していないということだったが、それをきちんと把握して、町から働きかけたり、制度に対して助成するなど、何らかの支援が必要なのではないか。

企画調整係長：現状把握は非常に必要なことだと思う。今後実施していきたい。

委員：自分の子育て時代のことを考えると、子どもが自分の手から離れてから仕事を開始した。働きながら子育てしている人を大変だな、えらいなと思いながら見ている。そういえば、社会参加はしやすい町だと思っている。自分だと、「どちらかという思う」と回答したと思う。

委員：30～40代の「思わない」の割合が多いのは、子育て時期だからだと思う。この部分を町がカバーして、仕事ができるような 帰ってくる時間が遅く、学童だけでは足りないのでは。満度に仕事できないと思っているのかなと思う。

委員：商工会青年部からの推薦できている。青年部には女性の部員もあり、役員をやっている

女性もいる。社会進出は男性も女性もできていると思っている。私の世代が低いというのは、一概にこれが原因というものはないと思う。色んな要因が重なってこういう結果になっていると思う。これから様々な場面で意識していきたい。

委員：前にも委員をやっていたことがあるが、それぞれ様々な団体から出てきている。町内会では、とにかく色んな行事に参加してもらおうと頑張っている。今年度は今回が最後の審議会となるが、委員が1回の会議で何かを決めるというのは難しいと思うので、色んな意見をとにかく持ち寄って、色んな行事に参加できるように後押しすることが大事だと思う。

会長：他に意見等はあるか。

委員：（意見なし）

会長：続いて、(3)コロナ禍・災害時における男女共同参画について、事務局より説明をお願いする。

事務局：資料2に沿って説明。

会長：会長：今の説明に対し、質問等はないか。

委員：（なし）

会長：それでは、コロナ禍での生活の変化や災害時に避難所を開設する際に必要なこと等について、委員の皆さんの意見を伺いたい。

委員：おむつを替えるスペースが授乳するスペースと同じになっていることが多い。男性は入りにくいし、女性がいると気まずい。必ずしも女性が子どもの面倒をみるということではなく、男性がおむつを替えることもあるし、粉ミルクであげることもある。「子どものおむつ替え・授乳＝女性」という固定概念を捨てて避難所開設しなければいけないと思う。

委員：町民全員が避難できるような避難所は確保されているのか。

企画財政課長：芽室町民が全員避難できる場所は確保していない。基本的には、水害の場合と地震の場合で分けて考えなければならない。芽室町で震度6強が起こる可能性はそんなに高くない。水害はある程度エリアが絞られている。データに基づいて避難所を決めている。

委員：パーテーションを備品として用意しているのか。

企画調整係長：地域防災計画に基づいて防災備品等を整備している。平成 28 年の台風災害で 避難所開設した。それ以降、町としてもより一層災害に対して意識を高め、都度計画を見直しながら、備品も毎年購入している。今現状で全て足りるだけ用意はできていないが、計画的に整備している。色んな視点でご意見いただけると、防災担当と共有して、今後の計画につなげていきたい。

委員：子どもが小学生であるが、発達障がいがある子どもが増えてきていると感じる。騒音が苦手だとか、人によって苦手なことがある。そういう子たちへの配慮とか、どうしても子どもが騒いでしまうからなかなか避難所行けないという家庭もあると思う。そういった方でも バリアフリーで 生活しやすい・避難しやすい避難所の運営は重要である。男

女共同の視点だけではなく、広くバリアフリーという点で考えることが大事だと思った。
企画調整係長：防災計画も、都度リニューアルをかけながらやっている。担当部局と話しなが
らやっていく。

会長：他に意見はあるか。

委員：（意見なし）

会長：それでは、本日の議題はすべて終了となる。最後に、事務局より連絡をお願いします。

事務局：次第に沿って説明。

会長：以上をもって、本日の審議会は終了となる。お疲れさまでした。

（19:45 終了）